

びわ湖トラスト親子環境学習講座

～megumiに乗船A～ 報告書



認定 NPO 法人 びわ湖トラスト

実施日	2025年 8 月 2 日 (土)
助 成	公益財団法人 平和堂財団
後 援	滋賀県教育委員会・大津市教育委員会
目 的	琵琶湖及びその周辺で、親子で環境学習を行い、直接触れることで、参加者に琵琶湖への環境について興味を持つ機会を設け、保全につなげる。
参加者	14 組 28 名 (大人：14 名・子供：14 名)
講 師	伴 修平氏 (滋賀県立大学名誉教授)
スタッフ	5名 (ボランティアスタッフ含む)

行程	
9:15	受付開始
9:40	乗船開始 乗船前にプランクトン採取見学
9:50	大津港 出港 (白鬚神社・沖の白石経由) オリエンテーション プランクトン講義 顕微鏡でプランクトン観察 (南湖)
11:45	ランチ (船内)
12:30	沖島 寄港 プランクトン採取・体験・島内散策
14:00	沖島 出港 プランクトン講義 顕微鏡でプランクトン観察 (北湖) スケッチ・アンケート
16:05	大津港 帰港 下船 解散



今年度も前年度と同じ行程にし、定員は、15 組 30 名としたが 1 組キャンセルがあり、14 組 28 名の参加となった。

受付は、スムーズに進み、乗船前に大津港で南湖のプランクトンを講師の伴修平先生と大学生 2 名 (学生理事で E/SASV Gams 実行委員長、ジュニアドクター 1 期生で E/SASV Gams 副実行委員長) で採取し、その様子を参加者、スタッフ全員で見学した。



乗船後、親子環境学習上の注意事項やトラストの紹介、スタッフの紹介をした。
 講師は、びわ湖トラストの事務局長でもある、滋賀県立大学名誉教授 伴修平先生。
 伴先生は、滋賀県立大学で24年間、教鞭を執られている。

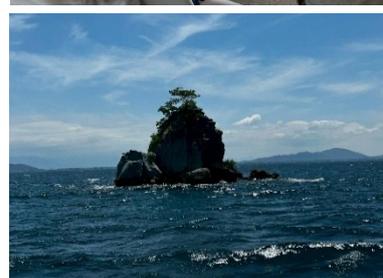
オリエンテーションの後、伴先生の講義が始まった。

琵琶湖の話、富栄養化について、プランクトンについて、プランクトンは季節によって違う。動物プランクトンが植物プランクトンを食べる。ミジンコはろ過食など、色々なことを教えてもらい、子どもたちは、メモをとっていた。

先生の顕微鏡からモニターでプランクトンが、映し出されると、参加者親子がプランクトンの一覧表を見ながら蛍光マーカーで囲み、プランクトンの名前を記入していく。



次に参加者も顕微鏡観察をする。分からない時は、手を挙げて先生や大学生、スタッフに聞く。何度も手を挙げ、質問する参加者、子どもたちだけでなく保護者、特にお父さんからの質問が多かった。



途中、琵琶湖大橋、白鬚神社、沖の白石に近づくと講義を中断して、船からの景色を思い思いに楽しんだ。湖から見る白鬚神社は、湖岸から見るのとは違い、鳥居の間から真っすぐに見える神社の景色は、神々しく感じた。沖の白石では、琵琶湖汽船の方から琵琶湖の島についての話を聞いた。

午前の講義を終え、船内又は、二階デッキにて個々に昼食を済ませ、沖島に上陸。船尾にて集合写真を撮り、プランクトン採取を見学して解散し、島内自由散策。



乗船前に渡した沖島の地図を持ち、神社に行く、小学校を見に行く、棧橋付近で過ごす、漁港会館で、よそものコロケやアイスクリームを食べる、つくだ煮を購入する、など思い思いに出港までの時間を親子で楽しんだ。



船に戻り、午後からの講義。下船前に採取した北湖（沖島）のプランクトンを顕微鏡観察。午前の観察の時よりも参加者親子の手が挙がる回数が、明らかに増え、先生も大学生ボランティアも忙しく、みんなの質問に答えた。

楽しい顕微鏡観察は、あっという間に過ぎ、まとめ、アンケートへ
南湖（大津港）では、植物プランクトン、動物プランクトン合わせて、28種類のプランクトン。
北湖（沖島）では、植物プランクトン、動物プランクトン合わせて、29種類のプランクトンに出会えた。どんな種類のプランクトンに出会えたかは、参加者だけの秘密。

伴先生が、最初の南湖のプランクトンを見た時よりも、後から見た北湖のプランクトンの時の方がみんなのプランクトンを見る目が肥えていた。と、褒められていた。

頑張った参加者全員には、プランクトンに関する参加賞が配られた。



最後は、尾上理事のお話。「楽しかった人～」と、子どもたちへの問いかけにたくさんの手が挙がった。

・参加者の皆さんへ

4年生は、来年のうみのこの予習。5年生は、事前学習や事後学習。6年生は、昨年のうみのこ乗船時に会ったプランクトンを思い出してもらえると嬉しい。

・今回、ボランティアスタッフが、3人（ジュニアドクター3期生の保護者、E/SASV Gams 実行委員長、副委員長）と少ない中、3人がテキパキと動いてくれ、とても助かった。

